

プロジェクト情報

- 国名：ケニア
- 事業名：小規模園芸農民組織強化計画／小規模園芸農民組織強化・振興ユニットプロジェクト（技術協力プロジェクト）
- 協力期間：2006年～2009年／2010年～2015年
- 相手国機関：農業省

1. プロジェクトの概要・背景

国内総生産の24%、雇用の80%を創出する農業は、ケニアの経済にとって重要なセクターです。市場向け農業生産の75%以上を担うのは小規模農家であり、小規模農家が農業で「稼ぐ」ことが、活気ある産業としての農業振興のために重要です。

JICAは、2006年から3年間、農業の中でも特に成長著しい園芸作物分野において、成長から取り残されていた小規模農家を対象に、小規模園芸作物栽培に係わる農民組織の強化と、農民組織に参加する農家の所得向上を目的とした「小規模園芸農民組織強化計画（Smallholder Horticulture Empowerment Project: SHEP）」を実施しました。SHEPでは、農家が市場に対応した栽培や営農、輸送の課題に自ら取り組めるよう、その能力強化を支援し、わずか2年で2,500もの農家が、平均して2倍以上の所得の向上を実現しました。

SHEPの成果を受け、ケニア政府は、小規模農家の園芸作物栽培からの所得向上をめざすこのアプローチを全国に普及するために、農業省にSHEPユニットを設置しました。現在実施中の「小規模園芸農民組織強化・振興ユニットプロジェクト（Smallholder Horticulture Empowerment and Promotion Unit Project: SHEP UP）」は、このユニットによる全国的な活動への協力を通じて、小規模農家の園芸作物栽培を推進しています。

2. ジェンダー視点から見たケニア農村部の社会経済状況

ケニアの小規模園芸農家では、農作業の7-8割、家事や育児などの再生産労働のほとんどすべてを女性が担っており、その過重な労働負担が、農業の生産性や家族の生活の質を低下させる要因となっています。また、男性は、栽培規模の大きい換金作物（コーヒー、紅茶、メイズ、サトウキビ等）を中心に農作業に従事しており、女性は、換金作物の農作業に加え、自家消費用にソルガム、バナナ、野菜等を栽培しています。作物を売って得られる収入は男性が管理しており、女性は、農作業を行って

も収入が手に入らないため、家庭菜園で伝統野菜やマメなどを栽培し販売することで、わずかの収入を得てきました。家庭内の意思決定も男性が行うのが一般的です。多くの女性は土地の所有権を持たず、技術指導や融資、普及サービスなどを利用する機会も非常に限られています。そのような状況により、女性の勤労意欲も低下しがちであり、効率的な農業経営を難しくしています。

3. ジェンダー視点に立った取り組み

SHEP/ SHEP UPでは、小規模園芸農家の経営の効率化、生産性と所得の向上を目的として、ジェンダー視点に立った様々な活動が用意されました。

(1) 男女の役割分担と意思決定に関する課題の確認

まず実施したのは、プロジェクト対象地域での男女の役割分担と意思決定に関する課題の確認です。効率的な農業を実践するにあたり何が課題なのかについてプロジェクトが調査するとともに、研修を通して農家の男女自身が話し合いました。図や表を使って、課題を目に見える形で共有したことにより、今まで当たり前と思っていた男女の役割分担や意思決定のあり方について、見直すきっかけとなりました。



(2) 調査から見てきた男女の役割分担や意思決定に関する課題への対策

①女性の研修への参加：女性は、多くの農作業を担っているにも係らず、研修参加の機会が非常に限られていました。男女の役割がはっきりと区別されているケニアの農村では、男性へ伝えられた情報や技術は、必ずしも女性へ共有されるとは限りません。そこで、SHEP/ SHEP UPでは研修参加者の男女比を50：50にして、女性の参加を促しました。

②夫婦による家計管理：従来ケニアの農村では、夫と妻は別々の収入を別々に管理し、その収支はお互いに知らせないものでした。そのため、無駄遣いや支出の重複もありました。SHEP/ SHEP UPでは、夫婦共同で家計を管理するよう奨励し、家計管理研修を導入しました。

(3) ジェンダー視点に立った活動が持続するための支援

①行政官のジェンダーに関する能力向上支援：県と区の普及担当職員と普及員に対し、プロジェクトがジェンダーに関する研修を実施し、研修後も、現場

で普及活動を行う時に問題がないかどうかフォローアップ活動を行っています。

②**農民組織への女性の参画支援**：農民組織の活動を強化するために、「協力」、「リーダーシップ」、「ジェンダー」の三点を農民自身が評価し、女性の参画を支援しています。また、意思決定メンバーの30%は女性を選出することを奨励しており、女性のニーズや意見が農民組織の活動に反映されることを目指しています。

4. ジェンダー視点に立った取り組みによる効果

SHEP/ SHEP UPのジェンダー視点に立った取り組みを通して、以下のような変化が見られました。

(1) 共同経営者としての意識変革

妻と共同で農家経営を考えることで所得が上がったため、これまでは妻を一人前と認めていなかった夫が、妻の意見が反映された農家経営を実践するようになりました。農業散布、作物の選定、農業投資の決定なども、以前は男性だけが担っていましたが、女性が技術研修に参加することによって男女ともに行うようになりました。共同経営者としての意識が生まれることで、お互いに信頼感が生まれ、夫婦関係の改善に結びついたケースが多く見られます。

【農家の男性の声】

以前は妻に見られないようにトイレでお金を数えていました。けれども SHEPに参加してからは、妻が果たす役割を尊重し、家計管理もともに行うようになりました。以前よりも夫婦仲は良くなり、園芸作物での所得で生活も楽になりました。

(2) 農家の「気づき」と行動変容による、女性の過重労働の軽減と生産活動の強化

夫婦が協力して働くことで生産性と所得が上がったため、そのメリットを実感した男性が、農作業と家事や育児で過重労働となっている女性の問題に気づき、家事や育児を手伝うようになりました。それにより、妻の過重労働が軽減され、農業活動に多くの時間を割くことができるようになりました。

(3) 効率的な農家経営による所得の向上

長期的なビジョンをもち、効率的に農家経営を行う夫婦が増えたことで、SHEPに参加した農家の所得は向上しました。研修機会の少なかった寡婦も、農民組織のメンバーとなり研修に参加することで、経営の知識を得て所得を増やすことができるように

なっています。

(4) 「労働に対する報酬」による女性のモチベーションの向上

SHEPの支援によって、以前より大きな収益を得ることができるようになり、女性は共同経営者として、その収益を手にすることが可能となりました。以前は、大きな収入はほとんど男性のものとなり、女性が使えることはなかったため、女性の生産活動への意欲が低下していましたが、労働に相応する収益がもたらされることによって、女性たちの生産性向上に対するモチベーションが大きく高まっています。

【農家の女性の声】

自分はこれまで何のために労働しているのかわからなかったけれど、今は自分の農作業が収益を上げるために大事な役割を果たしていることが分かります。また、今では自分が働けば働いた分だけ収入が上がるようになったので、前よりももっと前向きな気持ちで夫とともに仕事ができるようになりました。

5. ジェンダー視点に立った取り組みによる地域社会へのインパクト

(1) 地域の生活水準の向上

所得の向上と家計管理の効率化によって、「子どもを私立学校に送れるようになった」、「給水ポンプを購入した」など、多くの対象農家に生活水準の向上が見られました。また、子どもたちの栄養状態の改善も見られました。

(2) 女性の地域社会の意思決定への参画と経済力の向上

プロジェクト活動に参加することによって、会合などにおいて女性たちが自分の意見を言うようになり、農民組織の意思決定メンバーに選出される女性も増えてきました。また、所得が向上したために、貯金をして起業するなど、経済的に力をつけた女性も出現しています。

SHEP/ SHEP UPの実践により、ジェンダー視点に立った活動は、農家の農業生産性や所得の向上に貢献することがわかりました。今後、ケニア政府が農業政策を実践するにあたり、ジェンダー視点に立った普及が行われることで、ケニアの農村社会全体に同様の効果が広がることが期待されています。